

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2297200350		
法人名	メディカル・ケア・サービス東海株式会社		
事業所名	愛の家グループホーム浜松天竜 (第1・第2ユニット 合同)		
所在地	静岡県浜松市天竜区山東4360-1		
自己評価作成日	平成27年9月12日	評価結果市町村受理日	平成28年1月5日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_2013_022_kani=true&JivogyoCd=2297200350-00&PrefCd=22&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社第三者評価機構		
所在地	静岡県葵区材木町8番地1 柴山ビル1F-A		
訪問調査日	平成27年10月15日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当ホームは、会社の運営理念の「ご利用者の自由と選択の権利」について常に考え、ご利用者が選択して活動できる施設となるよう努力しております。地域との交流活動もまだまだ完全とは言えませんが、ホーム内の限られた職員とのコミュニケーションだけでなく、地域活動へ積極的に参加できるよう周知活動を進めております。
職員はみんな仲がよく、人員も満たされており、ご家族様からも夏祭りや、敬老会などの行事を通じてこれからのホームの活動にご期待を頂いております。タクティールケアやフマネットなど取り入れホーム内では「ダメ」と言わない介護をスローガンに全職員で取り組んでいます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

本年1月に着任の管理者は長く特別養護老人ホームに勤務した経緯から「認知症患者を寝たきりにさせない、しない」「だめと言わない」との目標を胸に抱き、様々な挑戦に着手しています。「利用者に社会参加してもらいたい」との想いは草刈りや商工会行事のお茶係に加わることとなり、「地域とのつきあい、は勢いが増しています。また「家族との距離を縮めたい」との意図をもって10月運動会、11月秋の遠足、12月クリスマス会と月行事を推進し、参会では「次はいつですか」「お手伝いすることがあれば」「楽しみにが増えた」との声が届き「家族意見の反映」の成果へつながるものと大いに期待が膨らみます。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	会社の運営理念を基にそれぞれの思いを踏まえ集約し一つの方向性を打ち出し共有している。	“利用者の選択の権利、については、10時のドリンクメニューを増やしたことから「コレにはケーキが合うね」「あの場所で飲もうよ」と想いの掘り起しにつながる、といった着実な実践例が多々みられます。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	地域活動(草取り)や地域のイベントのお誘いを受けて参加をしている。	社会参加を目指して草刈りや地域行事のお茶係が予定され、日常ではフラダンスや中学生のボランティア訪問があります。最近では園児25名の来訪で盛り上がり、次回クリスマス会での再会が待たれています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ホーム周りの散歩や買い物などを通じて、地域に発信している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議等で出された意見について精査し改善し、サービスの向上に活かしている。	新しい試みとしてパワーポイントで日頃の生活を映しだし、利用者の表情や職員の関わりなどがリアルに伝わったと自負しています。地域の高齢者の課題も挙がり、事業所としても協力出来る点を模索しています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	必要時は地域に協力を依頼するなどし、協力関係を築く努力はしている。	運営推進会議には毎回担当課長も出向いてくださり、テント等備品の貸し出しについても助言があり助けられています。またタクティールケアをはじめとする事業所資源を活かした地域貢献を現在協議中です。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束について常に朝礼等で話し合い身体拘束は行われていない。	新管理者着任後は「すべてあげるように」との指示が行き渡り、軽微な事故報告も集まるようになっていきました。そのため、単に空間を共にする見守りから動線や本人の動きの癖を把握した観察眼が育ち、発言にも変化が生じ手ごたえを感じています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ご利用者の表情や入浴時など全身チェックなどをして虐待の予想に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	個々のレベルに合わせ勉強のできる範囲で勉強している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は、書面により丁寧な説明を行ない、ご理解いただけるようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見やご要望について社内だけではなくITなどにて不特定多数に知って頂き、また意見をいただけるようなシステムを構築している。	「家族との距離を縮めたい」との意図をもって月行事を推進しています。参会では「次はいつですか」「お手伝いすることがあれば言ってくださいね」「楽しみにが増えた」との声が届いており、親交の深まりが伝わります。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全職員に満足度調査を年一回実施し意見を運営に反映させるべき措置を講じている。	3ヶ月に1回程度、業務の指導や打ち合わせを兼ねて運営に関する意見を聴取しています。また個人面談では言いにくいような職員もいるため、業務中に何気なく尋ねたり、会話をもつことを心掛けています。	長い介護職経験をもつ管理者の想いと未経験者には格差が生じることもあると推測されます。食事会など職場外でもフランクに胸襟を開ける場をもつことも検討ください。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	常に従業員の声を聞く体制をとりながら各自の努力に応じて向上心が持てるよう努力している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員一人ひとりと定期的に面接を行ないながら、社内研修を月1回実施し、外部の研修会にも必要に応じて参加していかれるよう努力している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	サービス事業者研修会や、地域の情報交換会に参加しネットワーク作りを行ったり、質の向上のための施策を行なっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス開始時には、ご本人やご家族との話し合いを重ね不安の払拭に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	専門職としてご家族のニーズをお聞きし意向を明確化し信頼関係を構築する努力をしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談の段階でご利用者の把握につとめ、適切なサービスが利用できるよう支援している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は常に動向を把握し、寄り添う介護を実践している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員はご家族の来園時や以外にもご家族のお気持ちやご本人の心情に配慮しよい関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	閉鎖的になりがちなホームの生活を見直しご本人の思いでの場所などへ行かれる支援を行なっている。	自宅の庭が心配な本人と早取りを相談したり、「柿採りはいつにする」「パチンコ行きたいなあ」とのやりとりが日々あります。集団就職の仲間に会いたい人には愛知県まで同行支援をおこない昔話に花を咲かせることができました。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ホーム内のご利用者の年齢や好みなどを把握しご利用者同士が話し合いながら一緒に楽しめるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	いつでもご相談に来ていただけるよう声かけや配慮に心がけている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	お一人お一人のニーズについて考え出来る範囲で実現しようと努力している。	職員が「できない」と感じてしまうことは管理者が率先垂範して「じゃあ、お昼はキャンセルしてラーメンに行こう〜」と促し、管理者が「できるんだよ」とみせることで「できない」枠を持たせないようにしています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族や入居当時の情報や状態を含め聞き取り調査などにて把握するよう努力している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	各種の毎日の記録、報告により、状態の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	お一人お一人についてのカンファレンスは3ヶ月に一度であるが、相談しあいその時に必要なことを行なえるよう計画に反映させている。	利用者の課題に応じて「ADLを低下させないためには、どのようにしたらよいか」といった方法や手段を職員間で意見を出しあい、計画作成に向けています。複数の選択肢から「一緒に」という視点で工夫に努めています。	拝見したプランには職員が実行できなかった理由(△)を書き込む欄が空白でした。「サービス内容」を具体的にしていとの自ら持つ目標の達成に向け、今後は標準化も伴に図られるよう期待します。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の各種記録への記入を通して個人を把握し、情報共有を図り、介護計画に活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人の意向やご家族の意向について常に耳を傾け、新しいホームの在り方や認知症ケアについて挑戦している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域とのつながりの幅を広げる為、模索しお一人お一人について生活を楽しむ余裕が持てるよう努力している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診は、ご本人の体調を含め、ご家族との連携のもと適切な医療を受けることができるよう支援している。	職員が受診に同行することで薬効や暮らしの中への反映について医師から密なアドバイスが得られています。家族への報告は面会や電話を通じて口頭でおこなっています。週1度訪問歯科も訪れています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	ご利用者様、ご家族様を第一に考え、チームケアを大切に連携して介護している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院の際はご家族のご意向に沿いながらムンテラ等積極的に参加し、病院との連携に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や看取りに関して、ご家族の求めに応じて説明させていただき、ケアプランなどにて情報の共有に努めている。	契約時に看取りの方針を提示し、また家族の意向も取り入れ合意形成しています。開設から4年となりますが、看取りの実績はありません。現在バルーン使用の利用者はいますが、重度化となるような状況にはありません。	現在は予定していませんが、少しずつ法人内で実績のある事業所及び職員から学ぶ機会をつくることも期待します。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時の対応や救急救命(AED)の使い方など年に2回訓練を行なって備えている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を法令にのっとり行い、近隣にも協力をお願いしている。ただし不足な面もあり、引き続きお願いしている。	火災想定では消防者職員の心援を得て水消火器を体験でき有益だったため、11月の2回目については地震を想定しておこなうとの意欲が高まっています。備蓄の見直しや自主防災との連携など課題を整理しているときです。	まずは揃えるものが必要なモノ、コトのリスト化をおこなうことを期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	尊厳を持った介護について常に職員と考え、プライバシーへの配慮など行なっている。	昨年までは、共用空間で打ち合わせをおこなっていた事を反省し、本年度からは些細なことでも利用者の視野に入らない所するように改善しました。接遇については研修会の開催を予定しています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人の自由と選択の権利について考え、希望される生活の実現に向けて配慮している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご本人の自由と選択の権利について考え、希望される生活の実現に向けて配慮している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご家族にも協力を仰ぎながら身だしなみについて支援する努力をしている。 が不足であるため努力していく。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事時間は、家事ができるよう支援し、準備、後片付けを行なって頂いている。	ヘアピンや三角布、エプロンで万端整えての手伝いは、どの湯呑が誰のものかをしっかりと押さえての配膳で驚きました。利用者手作りのランチョンマットを前にテーブルを囲み、職員との会話も自然に展開していました。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	ご本人の状態を鑑みて、食べる量を加減したり、水分チェック表により、水分補給の量を確認しながら ご希望に沿っての飲み物の提供を行なうよう		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一日3回食後に口腔ケアについての声かけを行ない、準備し、必要な方への支援を行なっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	各個人について24時間の排泄表を付けトイレでの排泄について推進している。	手拭きにはペーパーが置かれ、入室には灯りがとまり退出には消える照明も配され、感染症対策が成されています。初動で察知できる職員ばかりではなかったため24時間チェックシートを導入し、試用中です。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便コントロールが不十分であったため、24時間の排泄表の導入により、パターンをとっている。 排便コントロールを引き続き行なっていく。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴について、まず法令順守のための支援より、個別の支援への移行を支援していく方向で準備をしている。	一般浴ですが浴槽はやや広いため小柄な人には浮かないよう湯量で調節し、人毎に湯を入れ替えるため温度も好みとすることがスムーズにできています。週2～3回平均ですが、希望で1日おきの人もいます。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	安眠できる環境について、皆で考え、環境を整えている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬情報ファイルをつくり薬について周知を図り、間違いなく服薬できるような仕組みにて取り組んでいる。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご本人のご希望や表情から個人の楽しみについて考え役割を用意し、生き活きた毎日になるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	まだまだ十分とは言えないが、個別支援としてご希望にそってご家族と連携しながらでかけることができるよう心掛けている。	近隣のスーパーには数名の利用者だけで積極的に買い物にでかけたり、女子会と称する喫茶店探訪や船明ダムや道の駅へのおにぎり遠足も恒例となっています。図書館にでかけるのを習慣としている人もいます。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	職員は、「人としての楽しみ」について考え、ご本人の希望時にお金をお渡しし、自販機やレジにて支払を行えるよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご希望に応じて、電話の取次ぎを行ったり、はがきなどを用意し、一緒にポストに入れに行くなどの支援を行なっている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間は適度な広さが確保されており、季節感を感じる絵を用意したり、普通の家庭のリビングを目指している。	庭の芝生の水やりでは近所の皆さんと立ち話をしたり、洗濯物を干す生活リハビリが定着していることもあって利用者の行動範囲が広く、それぞれが好みの居場所をもっていることを視認しました。また各階に水槽が置かれ、金魚には名前もつけられていました。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ご利用者が思い思いの場所にてくつろいでおられるが、満足せず、パーテーションにて区切るなど工夫が課題である。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人が希望されるものや、使い慣れた物を持ってきていただくことを前提として案内を差し上げている。それぞれの居室にて工夫をしている。	たぶん好みなのであろうと受け止められる小ぶりな椅子や大きなテレビ、タンスなどが配され、家族写真やアクティビティ作品がならび、カレンダーや時計、ゴミ箱もあり、居室では一人暮らしを満喫していることが覗えます。	見学または契約時に持ち込み一覧を手渡すことで家族の選択がさらに拡がり、また「あれも、これも」と意欲が増すことを期待します。
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	全てのご利用者の安全な暮らしについて配慮しながら、ご本人の持っている能力により、ここに自立した生活を、送ることができるよう努力している。		